

取扱説明書

自走式草刈機

“ハーブモア”

HM50



0249-7000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社

オーレック

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《機械を他人に貸すときは…》	6
《各部の名称》	6
《各部のはたらき》	7
《方向について…》	8
《上手な運転のしかた》	8
運転前の始業点検 ----- 8	走行・旋回・変速・停止のしかた ----- 11
エンジン始動・停止のしかた----- 8	トラックへの積み降ろしのしかた ----- 14
《上手な作業のしかた》	15
草刈作業のしかた ----- 15	
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	16
ミッションオイルの点検・補給・交換 --- 17	可動部への注油のしかた ----- 18
エンジンオイルの点検・補給・交換 ----- 17	
《各部の点検・整備・調整のしかた》	19
タイヤ空気圧の調整のしかた ----- 19	燃料フィルタポットの清掃のしかた----- 20
エアクリーナの清掃のしかた ----- 19	点火プラグの点検・調整のしかた ----- 20
燃料パイプの点検のしかた ----- 20	
《そのほかの点検》	21
各部ワイヤ・ベルト調整のしかた ----- 21	
《ナイフの点検・交換・修正》	23
ナイフの点検・交換・修正 ----- 23	
《長期保管のしかた》	25
《仕 様》	26
《工具袋・同梱品明細》	27
《消耗品明細》	27
《定期自主点検表》	28
《自己診断表》	29
《エンジンの不調とその処理方法》	30

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱い方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

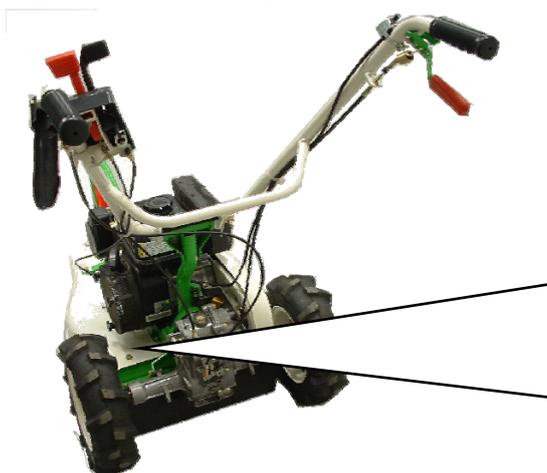
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

本製品を、歩行型の雑草刈りとして開発しております。これ以外の用途には適しませんので用途を守ってご使用下さい。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(業務用としての使用については6ヶ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式名と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。



種類 Description	草刈機(歩行型)
型式名 Model	HM50
製造番号 Serial No.	000000000
発売元	(株)オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD. MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON	

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

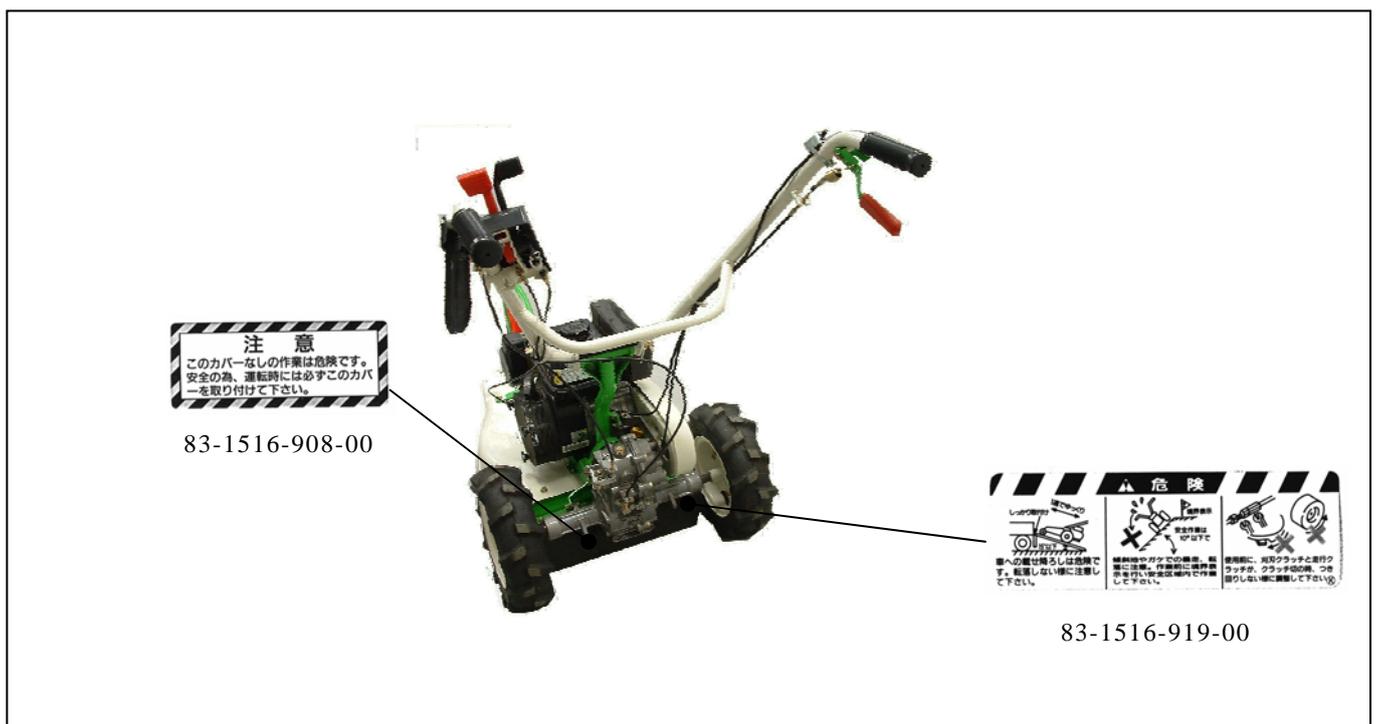
シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

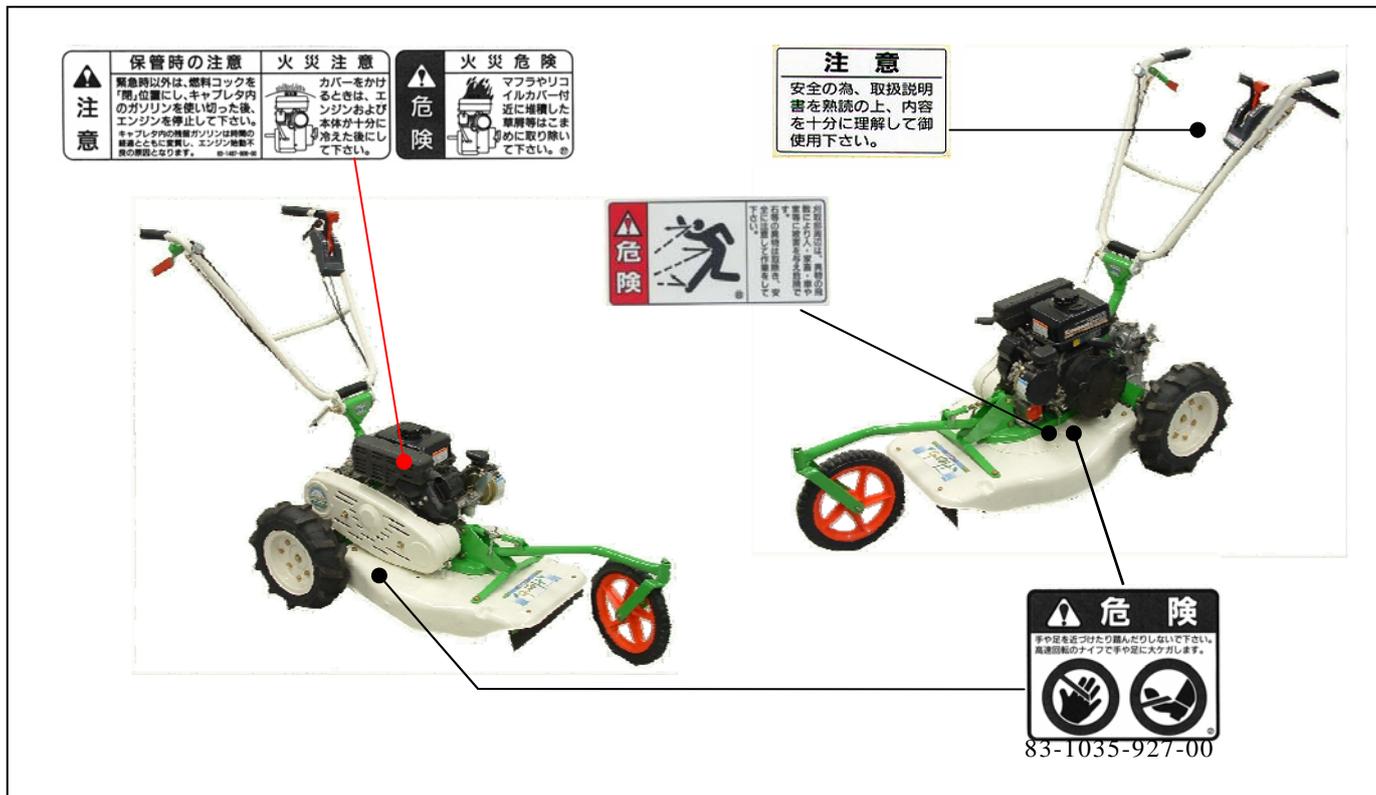
《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常に明確に識別できるようにしておいて下さい。 〈27頁…消耗品明細 頁参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

▲ 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

- ・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中は半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

▲ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- ・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

▲ ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

▲ ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

▲ 小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物はその位置を確認した後に目印となる物をつけた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では、安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

▲ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・ 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・ ナイフクラッチと走行クラッチが「切り」位置の時、ナイフとタイヤが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には速やかにエンジンを停止し、ベルト押え、ワイヤを調節して下さい。
- ・ 10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

▲ 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・ 平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
- ・ 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では本機の山側にはいない様にして下さい。

▲ 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

▲ 安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

(3) 燃料給油時の注意

▲ ガソリンの補給・排出、キャブレター及び燃料系部品の分解・調整のときは、タバコを吸ったり、その他のいかなる火気も近づけないで下さい。

- ・ 給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万々多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲ 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- ・ エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・ 走行クラッチ、ナイフクラッチを『切』位置にしてから始動して下さい。
- ・ 回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

(5) 積み降ろし時の注意

- ・ 平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・ 丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、変速レバーは積み降ろし共に前進「①」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

(6) 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

▲ 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。(該当製品)

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

▲ 刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。必要に応じてスネ当て等の保護具を着用ください。

▲ 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近づけないで下さい。

▲ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

▲ 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後を目印等をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて必要であれば修正・交換して下さい。

(7) 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。(該当製品)

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

▲ ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

▲ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

・ナイフブレーキ、走行(駐車)ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

《機械を他人に貸すときは・・・》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取り扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取り扱い方法や安全のポイントを十分に理解してから作業するように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

① 走行クラッチレバー(黒)

エンジンからミッションへ動力を断続させます。レバーをハンドルと一緒に握ると「」、離すと「」になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

② ナイフクラッチレバー (赤)

エンジンからナイフへの動力を断続させます。

レバーを上げると『』位置、レバーをおろすと『』位置に戻ります。

注意

ナイフクラッチレバーは、エンジン回転中は単独で「」・「」します。
レバー操作には十分注意して下さい

③ 変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進2段のみです

「①」位置ではゆっくりと「②」位置ではスムーズな作業が行えます。

注意

変速は、一旦走行を停止して行って下さい。走行中の操作は本機故障の原因となります。

④ スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

手前から低速『LO』・高速『HI』となります。

⑤ 刈り高さ調整ボルト

草の刈り取り高さを調整する時に操作します。

アジャスタボルトを回転させ、刈り高さの調整を行います。

調整は凸の方に合わせ、ナイフへの泥や石が噛み込まないようにして下さい。

レバーを右に回すと刈り取り高さは低く、左に回すと高くなります。

注意

刈り高さを低くしすぎると下記のような弊害が発生する恐れがあります。下記のような症状が見られる場合は、刈り高さを低すぎますので高くして下さい。

- (1) 小石等異物の飛散が多くなる。
- (2) 地面を削り、飛散した泥がナイフカバー内に付着し、刈草の吐き出しが悪くなり、無駄な馬力ロスが発生する。
- (3) ナイフの磨耗が極端に速くなる。ナイフが欠ける、折れる。

⑥ ハンドル固定ボルト

ハンドルの高さを調整し、固定します。

⑦ エンジンスイッチ

エンジンの回転を「入 (ON)」、「切 (OFF)」します。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈別記参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

▲ 警告： 本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

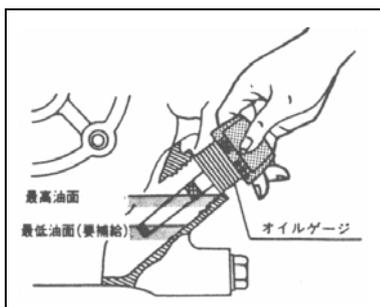
エンジンの始動・停止のしかた

▲ 危険

- ① 締め切った室内でエンジンの始動及び暖機運転をしないで下さい。
… 有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ② ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③ エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

▲ 注意

- ・ エンジン始動前には必ず、「各部オイルの点検・交換・注油の仕方」に従って各部のオイル量・質を確認して下さい。



■ エンジン始動の前に

- ① エンジンオイルを確認して下さい。
◎ 給油栓がオイルゲージを兼用しています。
オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。（17頁、エンジンオイルの点検・交換・注油を参照）

参考：

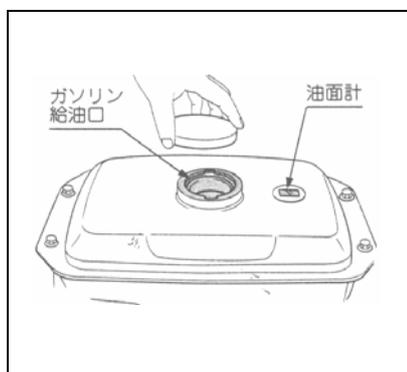
- ・エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- ・使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（10℃以上）	SAE 30, SAE 10W-30, 又はSAE 40
冬季（10℃以下）	SAE 5W20, 又はSAE 10W-30

■ 燃料の点検と補給

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。



② 燃料を確認して下さい。

燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

〈燃料タンク容量は別記…仕様参照〉

- ・ 燃料計のゲージが「E」に近づいたら早めに燃料を補給して下さい。
- ・ 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
傾斜地での使用は、給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。

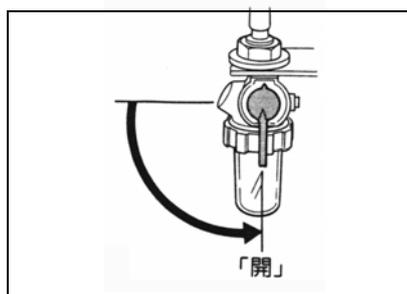
▲ 注意

- 燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(3ヶ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。

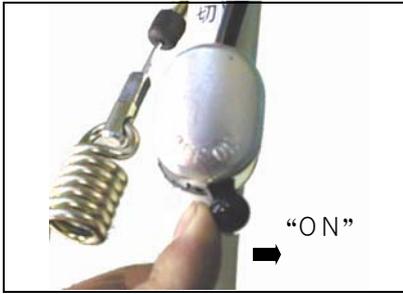
■ エンジン始動のしかた



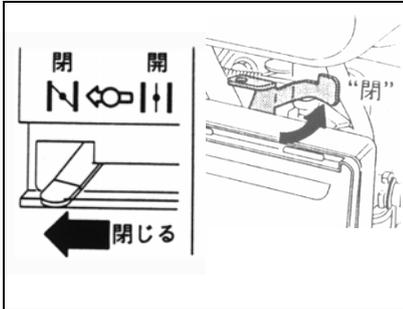
③ 走行クラッチレバー・ナイフクラッチレバーはいずれも「O」位置にして下さい。



④ 燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。

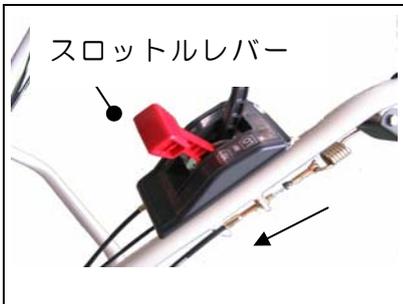


⑤ エンジンスイッチを「入(ON)」位置にして下さい。



⑥ チョークレバーを操作し、チョーク弁を「全閉」位置にして下さい。

参考；エンジンが暖まっている時は、チョークレバーの操作は必要ありません。

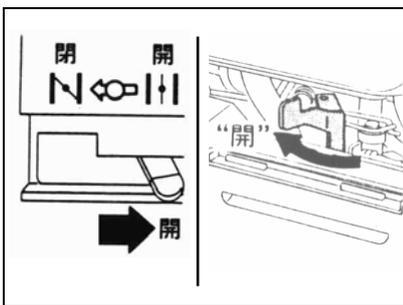


⑦ スロットルレバーを「HI」位置にして下さい。



⑧ スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。

エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。



⑨ エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を

「全開」位置にしてスロットルレバーを低速側位置でしばらく(5分程度)の暖機運転を行って下さい。暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

⚠ 注意

- ・新製品購入後、最初の一週間(3~4時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を心がけて下さい。
- ・チョークレバーを「全閉」位置のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意ください。

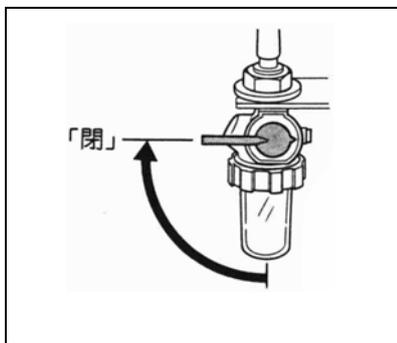
■ エンジン停止のしかた



⑩スロットルレバーを低速「LO」位置にしてください。



⑪エンジンスイッチを「切（OFF）」にして停止してください。



⑫最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。

走行・旋回・変速・停止のしかた

▲ 注意

- 所有者以外の人には使用させないで下さい。
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- ・車輪接地面の勾配が 10° を越える傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用は避けて下さい。
- ・高速位置での移動中、いきなり走行クラッチを切ると、急ブレーキがかかり本機は急停止し危険です。スロットルレバーを「LO」位置にして車速を落としてから停止するようにして下さい。

■ 走行のしかた



① エンジンを始動させてください。

<別記、エンジン始動のしかた参照>

② 変速レバーを「①」  或いは「②」  に入れて下さい。

▲ 注意

変速操作が不十分な場合、走行中にギヤ抜けの恐れがあり、大変危険です。ギヤが入りにくいときは無理に入れずに走行クラッチレバーを「入」方向へ少し動かしてから、再度、確実にギヤチェンジを行って下さい。



③ 走行クラッチレバー(黒)をハンドルと一緒に握ると走行します。

▲ 警告

・ 走行の際は、刈取部が石やその他の障害物に接触しないよう、刈高さ調整用前輪が一番高い位置にし、ナイフクラッチレバーは絶対に握らないでください。変速(ギヤチェンジ)がどの位置にあってもナイフが回転し、非常に危険です。

■ 旋回のしかた

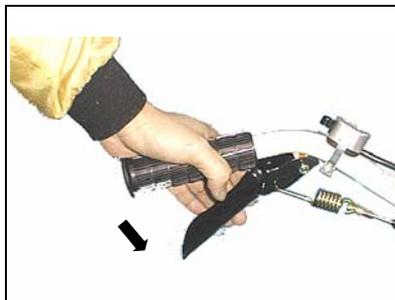


① ハンドルを旋回方向へ振ってください。

▲ 警告

安全のため旋回時には、ナイフクラッチレバーは必ず「切」位置にして周囲に十分注意しながら行ってください。

■ 変速のしかた



① 走行クラッチレバーから手を離し「㊸」位置にして下さい。

参考；

走行クラッチレバーを「㊸」位置のまま変速レバーの操作を繰り返し行なうと、故障の原因となります。



② 変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ替えて下さい。



③走行クラッチレバーをハンドルと共に握り、「㊟」位置にして再発進して下さい。

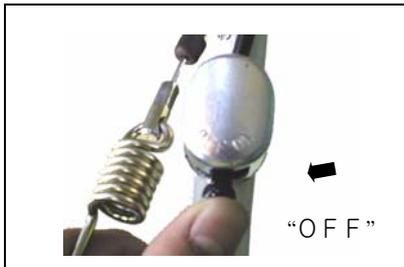
参考；

高速「②」位置で、ミッション内部より“カカカ”と音が発生する場合がありますが、これは変速機構の関係で高速ギヤが回転する音です。異常ではありません。安心してご使用ください。



■ 停止のしかた

①走行クラッチレバーから手を離し、「㊟」位置にして本機を停止して下さい。



②エンジンを停止して下さい。

〈11頁、エンジン停止のしかた参照〉

▲ 注意

- ・本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。
- ・本機を離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。
- ・エンジンを停止したまま軽く押して移動ができます。(走行クラッチレバー「㊟」位置)

トラックへの積み降ろしのしかた

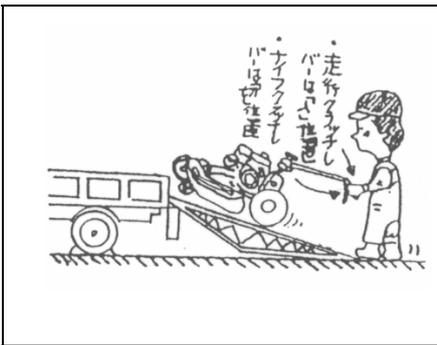
▲ 警告

- 運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- トラックへの積み降ろしの際には、刈高調整ボルトで、ナイフがブリッジと接触しない位置まで調整しておいて下さい。
積み降ろしの際にナイフがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ・ トラックは動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・ ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・ 積み降ろし時に、ブリッジ上でレバー類の操作はしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・ 積み降ろしは本機の車輪がそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。
- ・ 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・ トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

▲ 危険

本機の移動時は、必要以上に本機を傾けないで下さい。燃料が漏れ出す恐れがあります。万一、引火した場合には火災や死傷する恐れがあります。

■ 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ② 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③ 積み降ろしはどちらも変速レバー「①」位置で行なって下さい。
その他の位置にはしないで下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

草刈作業のしかた

▲ 警告

- 安全のため、標準で装着されているカバー・フラップ類は必ず装着したまま作業を行って下さい。取り外したままの作業は大変危険です。カッターユニット部分からの石等異物が刈取部全周にわたり飛散し、作業者をはじめ周囲に被害を及ぼす危険があります。
- 圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度 10°)のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。
- 作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないように、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径10m以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- 本機装着のカバー類は、刈取部からの異物の飛散を最小限に抑える様設計されていますが、これを完全に防止するものではありません。作業前の圃場内異物の除去は、作業者の責任で確実に実施して下さい。

▲ 注意

- ・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク靴や帽子又はヘルメット、すね当て、防護メガネ(製品付属)等を常に着用して下さい。
- ・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に出来る限り取り除いて下さい。
- ・石等異物の多い圃場での作業については、これらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等して、安全には十分注意して下さい。

参考:

- 緊急の場合、まずハンドルから手を離して走行及びナイフの回転を停止して下さい。
- 木の下、垣根脇等での草刈は、ナイフクラッチレバーのみを「Ⓐ」位置にして、手押し刈をするとスムーズに作業できます。但し、本機の挙動には十分注意して下さい。

ハンドル固定ボルト

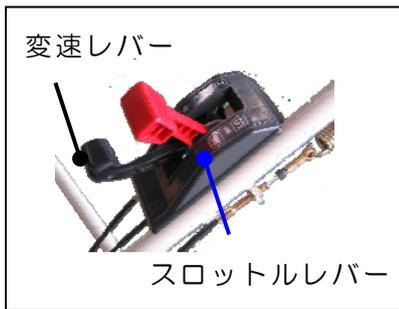


- ①ハンドル固定ボルトを緩めて、作業者の体格、用途に合わせてハンドルの位置を調整して下さい。調整後はハンドル固定ボルトを締めて確実にハンドルを固定して下さい。

刈高調整ボルト



- ②作業状況に合わせて刈高調整レバーで調整して下さい。レバーを右に回すと刈り高さが低くなり、左に回すと高くなります。(右と左は‘方向について・・・’を参照)伸びた草を刈り取る時には、最初刈り取り高さを高くして刈り取り、次に刈り取りたい高さまで下げて刈り取って下さい。



③変速レバーを「①」  位置にして下さい。

④スロットルレバーを高速「HI」位置にして下さい。

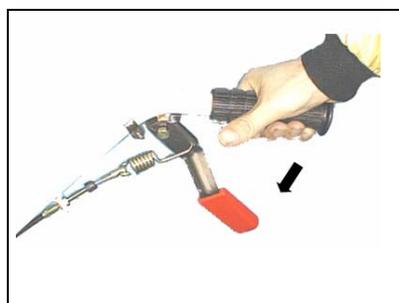
⑤エンジンを始動させて下さい。

⑥ナイフクラッチレバーを下から上へ押し上げ、「㊸」位置にして下さい。



ロナイフが高速で回転しますので十分に注意して下さい

⑦走行クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると発進し、作業を開始します。 〈12 頁、走行のしかた参照〉



⑧作業を終了する場合には、まずナイフクラッチレバーを右手親指で押し下げ、ナイフの回転を停止させて下さい。

⑨ 〈13 頁、停止のしかた〉を参照して走行及びエンジンの停止処置を行なって下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲ 注意

- ・出荷時本機にはオイルは注油されております。
- ・定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約5分以上）待ってから作業を行って下さい。

… エンジン停止後、すぐに作業を行うと …

* エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

* エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■ 交換後の廃油は適切な処理をして下さい ■

ミッションオイルの交換

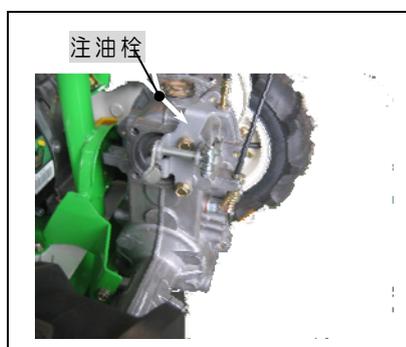
※注油は少しずつおこなってください。一度に注油しようとする、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。

◎ 交換・注油…注油量を厳守下さい。

①オイルを受け取る適当な容器を用意し、ミッションケースの下部のドレンプラグ（排油栓（銅パッキンのあるボルト））を緩めて取外し、排油して下さい。



②排油し、ドレンプラグを取り付けた後、ミッションケース上部の注油栓（透明の樹脂）を緩めて取外して下さい。注油口よりミッションオイル（#90）を規定量（1.2 ㍓）入れて下さい。



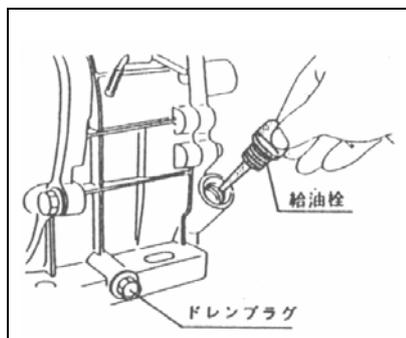
●注油後は、オイル漏れのないように注油栓をしっかり締め付けて下さい。

交換の目安

初回：20時間目、2回目以降：100時間毎

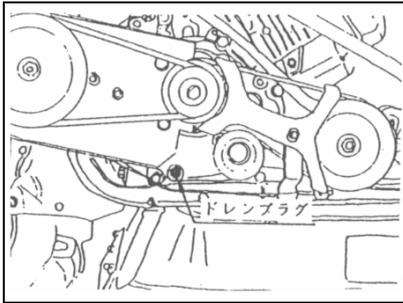
エンジンオイルの点検・補給・交換

◎ 点検・補給…



① 毎日、もしくは8時間毎に〈別記…エンジン始動の前に〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換して下さい。

（使用するエンジンオイルの質及び量は別記参照）
□エンジンには予めオイルが注油されています。



◎ 交 換…

- ② オイルを受け取る適当な容器を用意します。
- ③ ベルトカバーを取り外し、エンジン側下部にあるドレンプラグ(排油栓)を取り外し、クランクケース内のオイルを抜き取ります。
参考；同時に給油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。
- ④ オイル排出後、ドレンプラグを確実に取り付けて下さい。
- ⑤ 〈8頁…エンジン始動の前に〉を参考に指定のエンジンオイルを注油して下さい。

■ 搭載エンジンによってドレンプラグの位置が異なる場合がありますので注意して下さい。ドレンプラグがエンジン後部にある場合、ハンドルをホイスト等で吊り上げ、タイヤを外してオイルの排出を行ってください。(この場合、ベルトカバーの取り外しは必要ありません。)オイル交換後はタイヤ、ドレンプラグを確実に取り付けて下さい。

交換の目安
初回：20時間目、2回目以降：50時間毎

- 但し、高負荷又は高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)を励行して下さい。
- 交換後は取り外したカバー、給油栓は確実に取り付けて下さい。

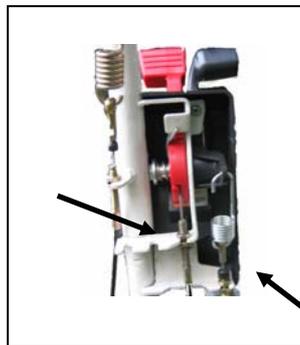
可動部への注油のしかた

◎ 約30時間毎にグリスを、又その他の部分には必要に応じてエンジンオイル(#30)を注油して下さい。特にグリスの注油を怠ると潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。

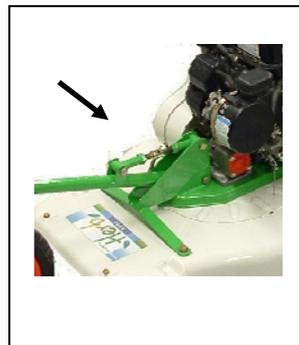
走行・ナイフクラッチワイヤ



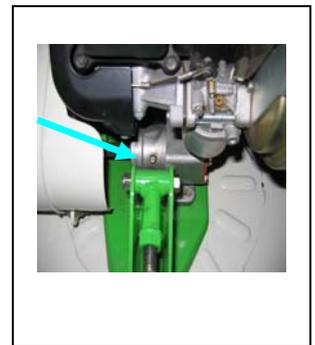
スロットル・変速ワイヤ



刈高調整ボルト



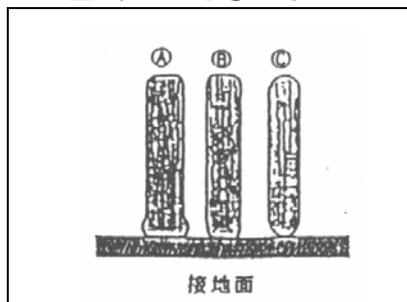
ギヤBOX (グリス)



《各部の点検・整備・調整のしかた》

タイヤ空気圧の調整のしかた

- タイヤの空気圧を、1.2Kg/cm²に調整して下さい。
空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。



- 外観から判断する目安は左図の通りです。

A：不足 C：過剰
B：適正

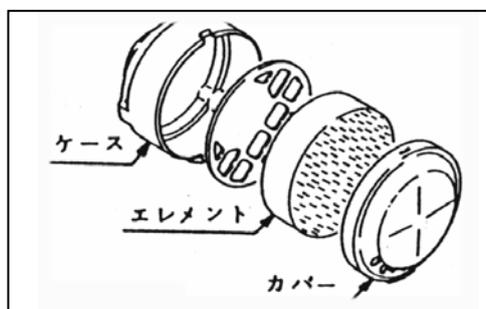
エアクリーナの清掃のしかた

⚠ 危険

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃して下さい。
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

■半湿式

メイキ GM132PN



- ① カバーを外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取り出して下さい。
- ② フォームエレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル(SAE10W-30相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ③ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおり組み付けて下さい。

参考：

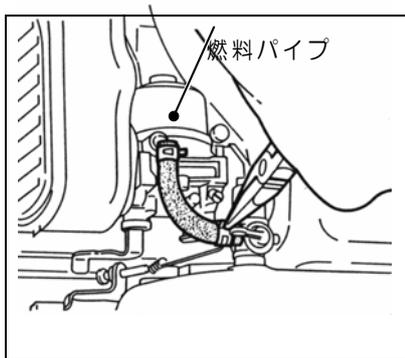
- ・洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れ使用できなくなります。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

	清掃	交換
フォームエレメント …	25 時間毎	100 時間毎
ペーパーエレメント …	50 時間毎	200 時間毎

チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた



⚠ 危険

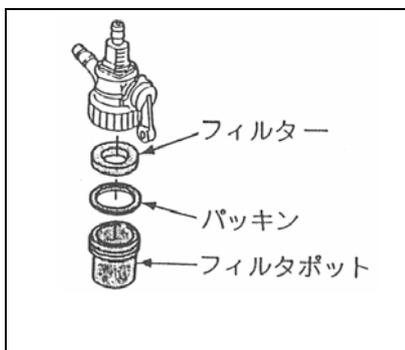
くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

参考；

パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタポットの清掃のしかた



⚠ 危険

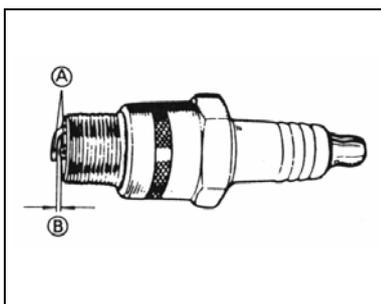
くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・50 時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- ・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
 - ①燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。
 - ②燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを吹き付けて乾燥させて下さい。

⚠ 警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Aにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③点火プラグの電極隙間Bを0.7~0.8mmに調整して下さい。

参考；

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。
〈点火プラグ基準…26頁《仕様》参照〉

《その他の点検》

- ①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）
- ②Vベルトは初期伸びしますので、2～3時間運転後に再調整して下さい。
〈21頁…走行クラッチワイヤ調整参照〉
- ③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。
〈28頁…定期自主点検表参照〉
- ⑥各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ⑦本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。
 - もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
 - オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

▲ 警告

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

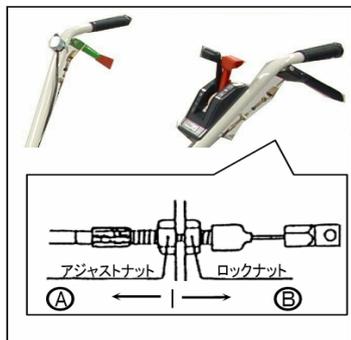


図 1

■ 走行クラッチワイヤ調整

図1を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

走行クラッチを入れても負荷がかかると本機が停止する場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

走行クラッチレバーを切っても本機が停止しにくい場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

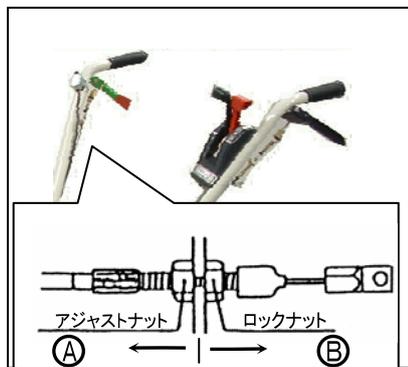


図 2

■ ナイフクラッチワイヤ調整

図2を参考にナイフクラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□ナイフクラッチレバーを入れても負荷がかかるとナイフの回転が停止する場合

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□ナイフクラッチレバーを切ってもナイフの回転が停止しない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

《仕 様》 (参考数值)

名 称		ハーブモア-
型 式		HM50
全長×全幅×前高(mm)		1,985×660×910 (ハンドル折りたたみ時 1250×660×575)
刈 幅(mm)		500
重 量(kg)		60
刈 高(mm)		20~75
ナイフ(枚)		バーナイフ×1
ベルト(本)	走 行	LA27×1
	刈 取	HP II -SA24×1本
タイヤサイズ(本)		3.50-6(φ300)×2
ハンドル		菊座調整式(ネジ式)
ブレーキ		ナイフブレーキ装備
速 度 (km/m)	前 進	①  2.16 ②  3.12
	後 進	—
クラッチ 方式	走 行	噛み合い(デットマン式)
	刈 取	ベルトテンション
作業能率(a/h)		①10.8 ②15.6
ミッションオイル(ℓ)		1.2 ℓ(#90)
エ ン ジ ン	名 称	メイキ
	型 式	GM132PN
	排気量(cc)	126
	潤滑油量(ℓ)	0.6
	最大出力(PS/RPM)	4.0/4,000
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	BP6ES
	タンク容量(ℓ)	3.0

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

No.	部 品 名	規 格 ・ 寸 法	個 数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	プラグレンチ	21m/m	1	
	プラグレンチバー	φ6×120		
4.	両口スパナ	10×12	1	
5.	〃	14×17	1	
6.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具(輸出仕様除く)

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個 数 / 台	備 考
1.	ナイフ	80-1035-821-00	1	
2.	ナイフ取付けボルト(8T)	83-1517-111-00	2	メック加工 M8×30
3.	バネ座金φ8	89-1750-080002	2	
4.	袋ナットM12	83-1515-175-00	1	P1.5
5.	バネ座金φ12	89-1750-120002	1	
6.	走行ベルト	89-6122-002701	1	LA27
7.	ナイフベルト	89-6132-002401	1	HPⅡ-SA24 コグベルト
8.	走行クラッチワイヤ	83-1516-932-00	1	
9.	ナイフクラッチワイヤ	0201-70400	1	
10.	走行チェンジワイヤ	0225-70200	1	
11.	スロットルワイヤ	0203-70200	1	
12.	危険マーク㉑	83-1516-918-00	1	
13.	〃 ㉒	83-1516-919-00	1	
14.	〃 ㉓	83-1515-907-00	1	
15.	〃 ㉔	83-1516-922-00	1	刈取部周辺は…
16.	〃 ㉕	83-1484-921-00	2	手や足を…
17.	注意マーク㉖	83-1487-908-00	1	保管・火災…
18.	〃 ㉗	83-1516-908-00	1	このカバーなし…
19.	〃 ㉘	83-1516-915-00	1	安全のため…

